

地域応援団本部発行

原野谷学園 だより

2015.2.23
第3号
FEBRUARY

平成27年2月23日
原野谷学園事務局(原野谷中学校)
TEL.0537-26-0011

1

「かけがわ教育の日」大盛況のうちに終わる!!

かけがわ教育には**3つの宝**があります。今号はこの3つについて報告します。

宝の**1つ目**は「**中学校区学園化構想**」(詳細は「原野谷学園だより」第1号で説明しましたのでここでは省略します。)です。

2つ目は平成26年1月に市教育委員会が発表した「**かけがわお茶の間宣言**」です。これは人づくりの土台は家庭にあり、家族が集う「お茶の間」を再認識し、家族団らんから生まれる心豊かな人づくりを目指しています。

「世界一短いメッセージ」は平成26年度は7,113作品の応募があり、13の優秀作品が選出されました。

「原野谷学園」からは、園児・児童・生徒数が694人(最大学園は2,665人)と少人数ながら**杉山依吹君**(あんり幼稚園)と**平井佳帆さん**(原野谷中)が選ばれ600人の前で表彰されました。



家族の会話大切に

掛川「教育の日」市民ら集い

市民総参加で教育の「5、6年生の「金次郎振興を図る集い」第8回を知らる会」が二宮金次郎を題材にした劇を披露した。九つの中学校シオーネで開催された。「大切にしよう家族の会話 広めよう我が家のお茶の間づくり」をテーマに、市民や教育関係者など約600人が家庭教育の重要性を確認した。

オープニングアクトサターを務める女優の藤田弓子さんによる基調講演に続き、市教委「お茶の間宣言」を会場が策定した「かけがわ全体で唱和した。



優秀作品を読み上げる「世界一短いメッセージ」の受賞者一掛川市文化会館シオーネ

メッセージの受賞者は次の通り。

優秀 杉山依吹(こども広場あんり年長)
藤田星音(佐東小1)
松下皇清(中小1)中
村光(桜木小2)村松
冬二(第一小4)桜井
弘夢(上内田小5)大
場莉里香(中央小6)
若松大夢(大浜中1)
佐藤優芽(同3)平井
佳帆(原野谷中3)下
島由賀里(掛川東高2)
酒井祐貴(浜野)

2014年
11月16日
静岡新聞



依吹君の
作品

『ゆづがなくからぼく2ばんでいいよ。
ゆづがねたら1ばんにしてね、
ママおやすみ』

佳帆さんの
作品

『ケンカしていつも素直になれない自分。
「ごはんだよ」
母の一言がくすぐったい』

メッセージの感想も「全ての作品が心温まるもの、胸が熱くなった」「子どもに対する親心・子どもの感謝の気持ちがわかる」などが数多くあり、改めて健全な家庭の中から心豊かな人間が生まれるのだということを認識しました。

3つ目は「**かけがわ教育の日**」です。昨年11月15日シオーネで開催されました。翌日16日の静岡新聞に右記のように掲載されました。終了後のアンケートでもたいへんよかった、よかったを合わせると実に99%と高い評価を受けました。

2 「学園」充実のために新規の会議・研修会を開催!!

各区長、補導委員をはじめ地域みなさんが「原野谷学園」694人の園児・児童・生徒を育て、守るために、昨年6月26日の「原野谷学園」総会で承認・決定されたことに基づき、

5月～1月 …… 保幼小中の要請に応じて、支援ボランティアの応援

7月・12月 …… 街頭キャンペーン

7月・12月 …… 長期休暇に入る前の駅・コンビニ・公共施設への巡回指導

8月 …… 全市一斉環境美化運動活動、原田地区納涼祭指導

10月 …… 原谷・原田地区祭典指導

6月・8月・2月 地域応援団本部代表者会

6月・1月 …… 保幼小中の先生方の一貫教育研究会

が例年通り実行されました。

さらに本年度は「原野谷学園」をより充実させるために新規の会議・研修会を開催しました。以下それぞれの会議・研修会の内容を報告します。



支援ボランティアの交流会



(1) 初の夏季小中合同研修会

平成26年8月4日、現在大きな問題となっている全国学力調査を検討するために、小中学校の先生方40人が原野谷中に集まって初の合同研修会を開催しました。

先生方の感想は



「小学校と中学校の先生が、学習についての情報交換の場が持てたというのは大変良かった」

「小学校での学習の積み上げが
中学でどれだけ大切であるかが実感できた」

「中学校区で育てていく子たちに
ブレない指針みたいなものが出来てくるといい」

などがあり、保幼を含めた小中間の学校連携を強化することが重要であることを確認しました。

(2) 家庭力強化委員会の開催

「原野谷学園」は学校・家庭・地域が三位一体の関係で成立しています。その中で1番の根幹をなすのが家庭教育のあり方です。

そこで11月6日、原谷学習センターで家庭力を強化するための対策を検討するために開催されました。会長・園長・校長・教頭・各PTA会長・副会長・あんり保護者会長・副会長が出席しました。参加者全員が意見を出し、**15年を見通した子育ての重要性、親同士が気軽に情報交換出来る場を作る、子どもと向き合いお互い理解するためにはどのようにしたらよいか、**を議論しました。

(3) 支援ボランティアの交流会の開催

26年度は、多くのボランティアの支援で「原野谷学園」は順調に動き出しました。しかし、園・学校と意見交換の場がない、ボランティア同士の情報交換の場がない等の課題が出てきました。それを話し合うために2月10日、原野谷中学校で交流会を開催しました。会長・副会長と17人のボランティアが出席、園・学校側から園長・校長・教頭が参加しました。

ボランティアへの方の支援・協力が「原野谷学園」の生命線です。交流会で出たいろんな課題を解決して支援・協力が得られやすい学園にして行くことが大切だと思いました。

3

8月からの保・幼・小・中の活動事例報告

(1) あんり幼稚園の活動事例



10月21日、JA原谷青年部の皆さんの支援で、園児が1人ずつ鎌を使って稲刈りを行いました。2月13日には餅つき大会をしました。

稲刈り



クリスマス会



12月22日、3人の地域の方がサンタクロースに扮して園児の質問に答えたり、プレゼントをしてくれました。園児がサンタクロースを前に目を丸くしていたのが印象的でした。

門松作り



12月、地域の方がボランティアで園の玄関に立派な門松を作ってくれました。みんな

でお正月の習わしを聞き、年神様を迎える準備が出来ました。

(2) 原谷小の活動事例



茶つみ

10月8日、3年生は地元の茶農家の方の協力を受けて茶つみ体験をしました。

お茶の手もみ

11月3日、3年生親子活動で、手もみ保存会とJAの方を講師に招いて、お茶の手もみを体験しました。

しめ縄づくり

12月11日、5年生親子活動で、細谷シニアクラブの方を講師に招いてしめ縄づくりを体験しました。



(3) 原田小の活動事例



稲刈り

10月17日、原田シニアクラブ8人、JA原田青年部11人、PTA12人とたくさんの方々の指導で稲刈りをしました。



しめ縄づくり



12月16日、原田シニアクラブ14人の協力と支援でしめ縄づくりを行いました。



(4) 原野谷中学校の活動事例

朝の読書 (読み聞かせ)

9月3日、10月8日、11月5日、1月8日、朝の20分間、1年生から3年生の各クラスにボランティアの方が行って読み聞かせをしました。外岡桂子さん・椎原美由紀さん・守屋加奈子さん・高木哲子さん・小田亜紀子さん・坂田友紀子さん・太田敏子さん・石川恵子さん・平井千佳さんが参加してくれました。



キャリア講座 「夢中でやる仕事」

11月25日、3年生を対象にキャリア講座が行なわれました。講師に、卒業生で太平洋トラベル社長の山本恭子さんを招きました。「チャンスは自分の手でつかむ」「人生は感動の玉手箱である」などを強調され、今後の3年生の進路に多くのヒントを与えてくれました。

かけがわ道德 「明治はじめの原野谷」

1月19日、1年生を対象に、かけがわ道德の授業が行なわれました。翌20日の中日新聞に右記のように掲載されました。

(火曜日)
中
原野谷



OBに郷土愛を学ぶ

学校建設の苦話など
原野谷中で道德授業

掛川

高木さんの講演を聞く1年生＝掛川市で

掛川市原野谷中学校で十九日、同校OBで常葉大短期大学部非常勤講師の高木敏雄さん(会)が「明治はじめの原野谷」と題して講演した。

一年生の道德授業の一環で、四十四人が地域の小学校ができた経緯や苦勞を聞き、郷土愛を育んだ。

明治初期に学制発布によって国民皆学が始まったが、校舎は寺院を利用したり貧困のために学校に通えない子どもたちと説明。また、子どもにしっかり勉強してほしいと願う大人たちがお金を出し合い、校舎を建設した苦勞などを話した。

高木さんは「身近なところには歴史があり、興味を持って調べるとおもしろい」と子どもたちにアドバイスし、「昔の事を明らかにし、現在や将来につなげていくことが大事」とまとめ

山本悠介君は「自分の通う学校の昔のことが詳しくわかったことがとても感動を話した。

2015年
1月20日
中日新聞

(5) 保幼小中の交流活動事例

保育園と中学校との交流

10月31日、11月14・21・28日に原野谷中学校2・3年生が家庭科の授業であんり保育園に来て交流をしました。

乳児や幼児のために手作りのおもちゃを用意したり、折り紙で一緒に遊ぶなど、心温まる場面が随所に見られました。



小中合同の通学区会

12月2日、保幼小中の連携強化を標榜する中学校区学園化を推進するため、本年度の通学区会は小学5・6年生の児童まで広げました。

中学生が小学校を訪問し、搬送法や応急処置法の伝達講習を行いました。

12月7日の地域防災の日には中学生と小学生と一緒に活動し、地域の人達から大きな信頼を得ることが出来ました。



地域応援団本部発行

原野谷学園 だより

2014.9.9
第2号
SEPTEMBER

平成26年9月9日
原野谷学園事務局(原野谷中学校)
TEL.0537-26-0011

1 多くの人が園・学校支援ボランティアに登録!!

平成26年1月10日発行の「原野谷学園だより」第1号で、**大切な原野谷っ子を地域ぐるみで育てる**ために地域のみなさんに園・学校支援ボランティアの登録をお願いしました。

初めは応募者が少なく不安でしたが、個人的に直接依頼したり、区長会の協力を得て、個人

では40人、団体では3団体(原谷シニアクラブ・JA 原田女性部・JA 原谷女性部) 会員約230人の登録がありました。今後は、このボランティアの人達が、園・学校の行事等を積極的にバックアップし「原野谷学園」を盛り上げてくれると思います。

2 地域の支援で「原野谷学園」が動き出す!!

順調なスタートをきる 会長 窪野 衛

地域の皆様、日ごろは「原野谷学園」に対して、御理解と御協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

特にボランティアの皆様には「原野谷の歴史、伝説」「読み聞かせ」「竹細工の講習」「草刈り」等の指導をしていただき本当に有難うございます。発足間もない当協議会も、皆様の御協力で順調なスタートを切ることが出来ました。今後とも皆様の御参加をお願いします。

1 第1回本部代表者会開催

6月3日、原田学習センターで、第1回本部代表者会が開催されました。総会の進め方、組織・会則・願う子ども像(“夢を抱きりりしく歩む原野谷っ子”)の確認や、これからの「原野谷学園」のあり方などを協議しました。



本部代表者会のメンバーを紹介します。

◎印は新任 無印は継続

役	職	氏 名	選 出 母 体
会 長		窪 野 衛	原田地区区長会長(栃原区長)
副 会 長	◎	竹下文博	原谷地区区長会長(本郷東区長)
副 会 長		西尾敏英	原田学習センター長
副 会 長		山崎行弘	原谷学習センター長
副 会 長	◎	松浦弘和	原野谷中学校PTA会長
副 会 長		落合浩美	原野谷中学校長
副 会 長		齊藤辰治	原谷小学校長
副 会 長		小松渡	原田小学校長
副 会 長		村松恵子	あんり幼稚園長
事務局 長		山本政弘	地域コーディネーター
副事務局 長	◎	成瀬英明	原野谷中学校教頭
事務局 補 佐		山田卓	原谷小学校教頭
事務局 補 佐	◎	伊藤淳子	原田小学校教頭
監 事	◎	小倉光博	原田学習センター事務長
監 事	◎	山下真弓	原谷学習センター事務長

2 小中先生方が公開保育参観

保幼小中の連携を強化するために小中の先生方が5月26日～30日の間にこども広場あんりに行って、保育参観をしました。先生方の感想は

「まず感心したのはあいさつです。…心がほっこり温くなりました。気持ちのよいあいさつは原野谷中学校区の宝として育てていきたいと思います。…」
「核家族、共働きが増え、幼保育園での教育、しつけが重要になってきます。幼保育園でのペースがあるから、子どもたちはその後大きく成長できるのだと思いました。…」
など前向きな感想が多く聞かれました。

3 一貫教育研究会全体研修会開催

6月18日、原野谷中学校において保幼小中一貫教育研究会第1回全体研修会が開催されました。公開授業のあと全体会・分散会がありました。特に4つの分散会では、幼保小中の先生方が公開授業の感想、総合力のある生徒を育むには、どの様に指導したらよいかについて、本音で意見を出し合い有意義な会となりました。



4 「原野谷学園」総会の開催

6月26日、原田学習センターにおいて「原野谷学園」子ども育成支援協議会総会が開催されました。来賓に、草賀章吉議員・野口安男議員、教育委員会から、平出行良教育次長・片山能志晴さんを迎え、本部代表者、各区長、各PTA会長、補導員、民生委員代表、保護司、主任児童委員、社会教育委員 計43名が出席しました。

組織、会則・内規の改正、願う子ども像、会長・副会長・事務局・地域部会正副部長の確認、さらに平成25年度の事業報告・会計報告、平成26年度事業計画・予算の提案と承認が行われました。

また、教育委員会から、「かけがわ教育の日」、「かけがわお茶の間宣言」の説明がありました。



3 7月までの保・幼・小・中の活動事例報告!!

1 あんり幼稚園の活動事例

あんり田植え

6月4日、原谷JA青年部の皆さんの支援で、田植え（実際は、泥遊び）を行いました。普段、経験できない泥の感触に大歓声!!

来年2月には、収穫できた餅米で“もちつき”を体験する予定です。



✂ あんり園児と原谷小6年生との交流会

6月27日、恒例の原谷小6年生との交流会が行われました。園児と共に職員も卒園し成長した児童に会えるのを楽しみにしています。この日は、年長児との交流。6年生が各クラスに分かれてグループごと読み聞かせ・人形劇・手品など遊びを考えて来てくれました。

さらに、7月9日には年中児との交流が行われました。



2 原谷小の活動事例

✂ 校内の草刈り

5月18日、名倉 功さん・山崎智行さん・鈴木由太郎さん・鈴木喜久治さんが原谷小のプールの近くや、体育館のまわりの草を刈りました。

5月24日、鈴木 駿さん・鈴木 昭さんが原谷小PTAの人達と一緒に校内全体の草刈をしました。



✂ 「とうどの森」伝説の話

7月10日、佐藤収一さん・青木 一さんが人形とパワーポイントを使って「とうどの森」伝説を3年生に話しました。以下はその時の感想文です。

 **Aさん**「とうどの森には伝説があって、長福寺にもたくさんあって原谷はすごい不思議に思いました。」

 **Bさん**「家の人にはなしたらしらないと言ったので、おしえてあげました。」

 **Cくん**「とうどの森に行って調べてみたいと思います。またひまなときは、原谷小学校に来てくれるとうれしいです。」



3 原田小の活動事例

✂ 竹細工 将棋 手芸クラブ

この行事は4・5・6年の児童が地域の方々との交流を通して、協調性や社会性を培う目的で実践されています。

5月15・29日、6月12・19・26日の計5回。竹細工は杉山昭男さん・高木金夫さん、将棋は山本道雄さん・加茂浩司さん、手芸は角川純子さん・浅井由美子さんが指導してくれました。

 **Dくん**「地域の先生と対戦したり、駒の動かし方を教えてもらったりして楽しかった。地域の先生は強かった。」

 **Eくん**「竹とんぼや水鉄砲、弓矢の作り方を教えてもらった。のこぎりの使い方のやくをつくってあてる遊びも教えてもらって、楽しかった。」



田植え

6月2日、9時から10時、シニアクラブ8人、JA原田青年部8人、PTA3人の方々が指導してくれました。



Fくん

「苗の植え方を丁寧に教えてもらったので、上手に植えることができました。うれしかったです。」



Gさん

「毎年、地域の方や青年部の方が来ていただいて感謝しています。」

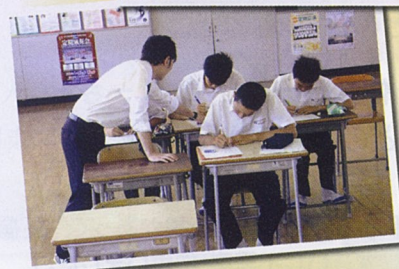


4 原野谷中の活動事例

数学塾

6月13日、14時20分から50分間、数学塾が開かれました。これは2・3年の生徒の学力を向上させるため、少人数で指導するものです。ボランティアとして、大学生の牧野照平君と、ベテランの松下淑さんが参加してくれました。

牧野君は「教師を目指しているので、大変よい機会だった。」、松下さんは「数十年ぶりに数学を教えました。よい刺激になりました。」と感想を述べてくれました。



朝の読書（読み聞かせ）

7月9日、8時10分から10分間、1年から3年の各クラスにボランティアの方が行って読み聞かせをしました。守屋加奈子さん・坂田友紀子さん・高木哲子さん・太田敏子さん・外岡桂子さん・椎原美由紀さんが参加してくれました。生徒達は新しい試みで新鮮に感じたようです。

各ボランティアの人の感想は、「聞く態度が出来ていた」「はじめと終わりのあいさつがしっかりしていた」など、良い評価をしてくれました。ただ「10分は短い、15分はほしい」との意見が多くありました。今後の課題として検討してほしいと思います。



奉仕作業

7月19日、7時30分から2年生保護者と生徒が奉仕活動として、学校内の草刈を実施しました。ボランティアとして名倉 功さん・鈴木 昭さん・鈴木洋司さん・山崎智行さんが参加してくれました。



地域応援団本部発行

原野谷学園だより

2014.1.10
第1号
JANUARY

平成26年1月10日
原野谷学園事務局(原谷小学校)
TEL.0537-26-0005



1

原野谷学園成立の背景とは？

昭和22年3月31日戦後の日本の教育の根幹をなす『教育基本法』(11条からなる)が公布されました。そこには皆さんがよく御存知の教育の機会均等・義務教育9年制・男女共学などが謳われていました。

しかし、激しい時代の変化の中で学校が地域に開かれた信頼される存在となるための制度改正が叫ばれ、平成18年12月15日新しい『教育基本法』(18条からなる)が臨時国会において成立しました。その中の第13条には「学校 家庭 及び地域住民その他の関係者は教育におけるそれぞれの役割を

自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする」があり、学校・家庭及び地域住民等の連携協力がこれからの教育には非常に重要であることが打ち出されました。



この連携の動きは全国に広まり、すでに大きな成果をあげている学校・地域が出てきています。

掛川市では、平成25年度に『掛川市中学校区学園化構想』を発表しました。

内容は以下のとおりです。

「……この事業では、中学校区を〈学園〉と呼び、各学園内の幼稚園、幼保園、保育園、小学校、中学校が連携を強化し、子どもの発達段階に応じた一貫性のある教育を推進します。さらに、地域連携による園・学校を支援する活動や地域の子どもたちを健やかに育むための活動などを通じて学園に根ざした教育活動を推進します。

この地域ぐるみの取組の展開により、多くの地域の大人たちが子どもたちの成長にかかわることで、子どもたちに多様な体験や経験の機会が増え、広い人間関係づくりが期待されます。」

(掛川市教育委員会のパンフレットより)

要約すれば…

「保幼小中の連携さらに学校・家庭・地域の連携を強化し、15年を見通し地域ぐるみで子どもを育てましょう」

というものです。

どうしたら上記の目標が達成出来るか、今までコーディネーターを中心に何回も会議・研修を重ねてきました。

そして平成25年11月25日の第2回原野谷中学校区子ども育成支援協議会で

『原野谷学園』が発足しました。



2

原野谷学園の 「願う子ども像」と組織とは？



1 原野谷学園の 「願う子ども像」



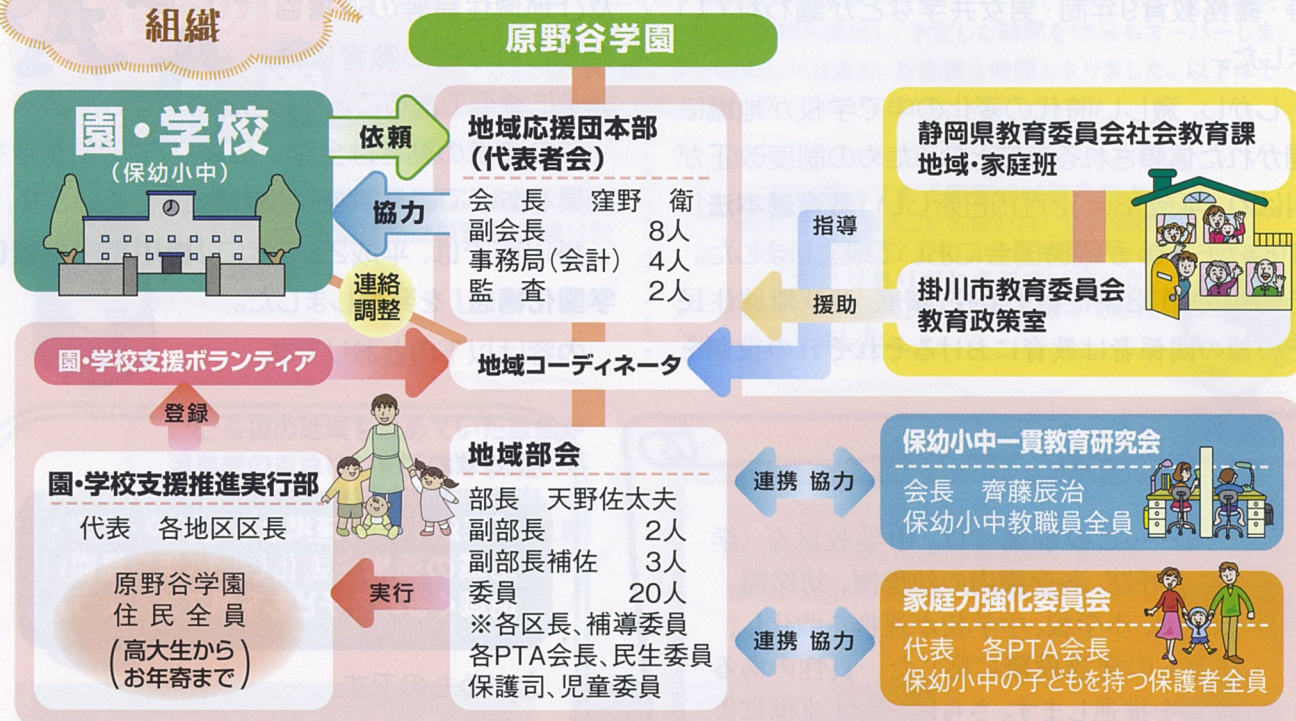
“夢を抱きりりしく歩む 原野谷っ子”

具体的な姿として

1. 明るく元気にいつでもどこでもあいさつができる
2. 親子ともに読書に親しむことができる
3. 親子で地区の行事に参加し、
郷土を愛することができる



2 原野谷学園の 組織



※「原野谷学園地域応援団本部(代表者会)」のメンバーを紹介します。

役	職	氏 名	選 出 母 体	役	職	氏 名	選 出 母 体
会 長		窪 野 衛	原田地区区長会長(栃原区長)	事 務 局 長		山 本 政 弘	地域コーディネーター
副 会 長		竹 下 潔	原谷地区区長会長(本郷西区長)	副 事 務 局 長		山 田 卓	原 谷 小 学 校 教 頭
副 会 長		西 尾 敏 英	原田学習センター長	事 務 局 補 佐		杉 浦 雅 美	原 野 谷 中 学 校 教 頭
副 会 長		山 崎 行 弘	原谷学習センター長	事 務 局 補 佐		白 井 久 雄	原 田 小 学 校 教 頭
副 会 長		杉 浦 敏 彦	原野谷中学校PTA会長	監 事		仲 屋 雅 乃	原田学習センター事務長
副 会 長		落 合 浩 美	原 野 谷 中 学 校 長	監 事		山 崎 智 行	原谷学習センター事務長
副 会 長		齊 藤 辰 治	原 谷 小 学 校 長				
副 会 長		小 松 渡	原 田 小 学 校 長				
副 会 長		村 松 恵 子	あ ん り 幼 稚 園 長				

(以上15人です)

よろしくおねがいします!

③ 原野谷学園の会長には「窪野 衛」、 コーディネーターには「山本政弘」がなりました。



『原野谷学園』発足にあたり

会長 窪野 衛

『原野谷学園』は従来の青少年健全育成会を発展的に解散し発足するものです。

「将来に向かって無限に成長をする地元の子どもたちを地元の区民の皆様が、自分の出来ることを一つでも教えて、成長の手助けをして行く事」が大切です。区民の皆様が積極的なご協力をお願い申し上げます。

より優れた学園をめざして

地域コーディネーター 山本 政 弘

現代は社会の急速な変化に伴い、学校・家庭・地域はそれぞれ難しい課題を抱えています。分業論も根強いですがこの3つが連携し、本来持っている教育力が発揮されればその相乗効果によって『原野谷学園』が大きく発展することが期待出来ます。

私はこの3つのニーズを知り、それを適切に結びつける調整をします。さらに掛川市の他の8つの学園と情報交換し、より優れた学園になるよう努力していきます。

③ 原野谷っ子を育てる 地域応援団を作ろう!!



『原野谷学園』の成否は強力な園・学校支援ボランティアをすることににかかっています。地域のみなさん、「願う子ども像」の実現のために園・学校支援ボランティアに登録し参加してみませんか？みなさんの知識や経験、特技を是非地域に還元してください。

そして、**大切な原野谷っ子を地域ぐるみで育て、光り輝く宝石にしましょう。**

同時にこの活動は、原野谷住民の相互のつながりを深めることが出来、幅広い年代の交流の場に発展していくことが期待されます。学校が掛川市の言う生涯学習の中心にもなっていきます。

たとえば 保幼小中では次のような活動の 支援や補助を募集しています。

- ① 図書館の整頓や読み聞かせ
- ② 米作り（田植え・稲刈・脱穀）についての話やもちつき、しめ縄作り
- ③ 学校内の整備（草刈り、樹木の剪定、花壇作り）
- ④ 地域の歴史や偉人についてのお話
- ⑤ 算数・数学などの学習指導・支援
- ⑥ ミシンの使い方の支援
- ⑦ 昔の遊び・小物づくり、将棋などで指導支援
- ⑧ あいさつ指導や登下校の指導
- ⑨ その他



原野谷学園 園・学校支援ボランティア登録の確認事項

- 1 お申し込みいただいた方は「園・学校支援ボランティアリスト」に登録されます。
- 2 学校から活動支援の要請がありましたらコーディネーターより連絡させていただきます。
- 3 登録いただいた個人情報は、「原野谷学園」の支援活動以外には使用しません。
- 4 登録いただくことにより、ボランティア保険（原野谷学園が負担）に加入しますので安心して活動していただくことが出来ます。
- 5 本格的に活動していただくのは平成 26 年 4 月以降になります。
- 6 支援ボランティアのスキルを高めるために、内容説明会や反省会の開催を予定しています。

最初の園・学校支援ボランティア活動報告

原野谷っ子に 郷土愛の目覚め



昨年9月に原野谷中学校から「地域の歴史や偉人についてのお話」の依頼があり、これを受けてコーディネーターは地域の歴史に造詣の深い佐藤収一さんと澤村久雄さんをお願いし受諾していただきました。お2人は昨年11月20日、中学1年生を前に原野谷の歴史について、プリントやパワーポイントを使って興味深く話されました。質問も続出し、予定した時間を15分もオーバーしました。生徒に郷土愛と探究心が目覚め、有意義な時間となりました。以下はその時の感想文と写真です。



原野谷のために勉強し、人々に教えるを説いた松堂高盛は原野谷の誇りだと思います。

誰に聞いても「原野谷は田舎だよ。何もないじゃん。」と言われ、正直認めていた自分に、このような知識を与えてくださりありがとうございました。自分の地域のことについて知ってみたくくなりました。



ここら辺の地域を治めていた原氏が源義経の重臣について活躍したと聞き、原野谷の地区は改めてすごいと思いました。これを聞いてもっと歴史に興味を持ちました。

原野谷にこんなにたくさんの歴史があったなんてびっくりしました。歴史は奥が深いんだなあと思いました。僕も少し調べてみようと思います。



地域の歴史を話していただいた 佐藤収一さんの感想

中学生の授業感想文から「郷土の事をもっと知りたい」「郷土の先人を見直した」「郷土を誇りに思う」といった前向きな追求心が見られました。地域の中での「自分の存在」を強く自覚した感想が多く頼もしく感じました。子どもたちの成長や発達には身近な親や大人たちの関わり方がとても大きいと思います。

